



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムバーラク大統領支持派と反体制派の衝突 研究員 江崎 智絵

2月2日、ムバーラク大統領への支持を表明するデモ隊が登場した。米 NYT 紙によれば、ムバーラク大統領の支持派は、数台のバスに分乗し、反体制派による抗議活動が続くカイロ中心部のタハリール広場へと到着した。また、同紙は、目撃者の話を引用し、彼らが同一の横断幕を持つと共に、警察や与党党員の身分証を有していたことを報じた。

その後、ムバーラク大統領の退任を求める反体制派と同大統領の支持派との間で衝突が発生し、エジプト保健省の発表によると、3名が死亡、600名以上が負傷した。2月3日未明には、支持派による反体制派への発砲も行われた模様。また、支持派による CNN 等国外メディアへの暴力行為も生じた。これまでに反体制派が同様の行為に及んだことはなかった。

エジプト国軍は、1月31日付国防省の声明で、国民に対して武力を行使しないこと、国民の要望及びその正当性を理解することを明示していた。しかし、上記の衝突を受けて国軍による逮捕者が出る等、国軍が徐々に介入し始めたと言われた。

米国国務省の報道官は、エジプト政府に対し、事件の真相究明を要請した。また、同国ホワイトハウスの報道官は、今回の衝突が政府によって扇動されたのであれば、迅速に停止されるべきとの見方を明らかにした。

エジプトでの抗議活動は、10日目に入ったが、これまでに145名が死亡したとの報道がある。国連人権理事会の発表によれば、死者は300名に上った。